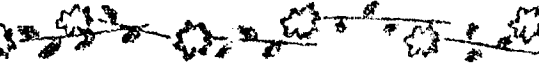
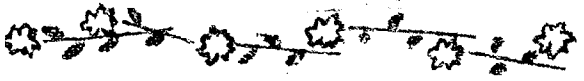


『ひまわり』で学んだことを はぐれりの里佐賀で実践して

明石洋子



五年前、川崎から佐賀に転勤で引越された。元ひまわり父母の会役員の明石さんが、今春川崎に戻って来られました。明石さんは、障害児は養護学校に行くのがあたりまえだった佐賀で、お子さんを普通級に入れました。佐賀では、障害児が普通級に入るのには初めてでした。周囲の抵抗や拒絶反応が予想以上だ、は最初の授業参観懇談会。その時、なぜ普通級級に入れたかを、親がきちんと説明できたがゆえに、父兄の理解を得ることができたこと、また、ひまわりで学んだ「子供を地域に出していく」親が地域に働きかけ、地域を変えていく活動を実践したことなど、貴重な体験談を寄稿して下さいました。



佐賀でも普通級へ

主人の転勤で、保守的閉鎖的である佐賀に引越したのは、昭和五十五年、徹之が小二を迎える春でした。「五四義務化」の年に入學する徹之の為にひまわりで十分勉強した私達は、迷うことなく佐賀でも普通級に入れました。

養護があるのに……なぜ?

でも転校したばかりの四月の授業参観後の懇談会の席で、開口一番、一人のおかあさんが先生に質問された言葉には、びくくりしました。

「二年生になって、変わった子が転校してきたようで、うちの子が帰宅すると、毎日その転校生の話ばかりしてきます。私は「あんたは学校に勉強に行くと」とやけん、黒板の方を見てればいいよ。そんな子の世話することやらん」と言っており、気がな、て目がその子の為に、くそうです。そんな子の為に、養護学校があると聞いておりますが、どうしてこの小学校にきているのですか? この学校にくる特別な理由でもあるのでしたら、せめてうちの子の斜め前の席に置くことだけはやめ、席替えをしてほしいと思います。」



私は主人の転勤が決ま、た時、佐賀県の親の会の会長さんに川崎からお電話して、障害児の就学状況をお聞きいたしておりました。その時、どうして普通学級に入れたのですか？そんなところに入れたら、親子してつらい思いをするだけです。この養護学校がありますから、一緒に教育委員会に行、てあげます、と親切にお、しゃいました。

日佐賀では、障害児が地域で生きていけ、と私は覚悟して、引越して行、たわけですけど、初めてのPTAの会合でのこの質問には、涙があふれそうになりました。でも先生が返答に困、ていたら、しゃいましたし、私がここで泣いては、不幸な子をも、た不幸な母親と同情こそされ、正しい理解はしてもらえないと思、い、勇気を出して立ち上がりました。

普通学級に入れた理由を説明して

「私はその転校生、明石徹之の母親でございます。」と挨拶をしまして、次のような趣旨のことを申しあげました。

「確かに、障害児の為に養護学校はあります。障害があるが故に、特別な指導と配慮は必要かもしれませんが、でもそれ以上に大切なのは、人

間として、子供として、あたりまえに、家庭で、地域で生きていくことではないでしょうか。

県立養護学校で、親元から離して寄宿舎生活して、どんなすばらしい教育を受けたとしても、特別な隔離された場所で受けた治療教育が、家庭内地域内でどれだけ生かすことができるでしょうか。徹之は日小児自閉症という障害で、短期間の治療では治るものではありません。一生涯かけての学習が必要ですが、その為には、本来生活すべき地域社会から、家庭から、切り離しては、飛躍はありえないと思うのです。

大切なのは地域の中で

生きていけること

徹之は、毎日共に生活している人々と一緒にいる時は安定しています。が、初めての環境や見慣れない人達ばかりの中におかれますと、奇異な行動をとり指示も耳に入りません。ですから、特別な一定の場所でのみ行われた治療教育には、その場で適応しても一般社会に適応する為の発達へとは結びつかないのです。

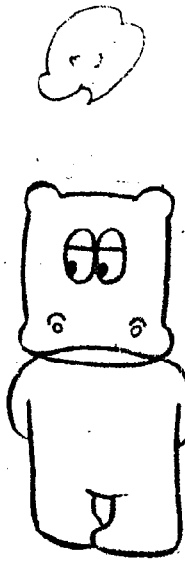
それ故、最初からあたりまえに生活する地域社会の中で、ひとつひとつ経験させて学習し、広がりを持たせたいと願、っております。また今お話しされた奇異にみえる行動も、クラス内の状況が十分認知できない為で、もう少し時間をいたなければ、必ず安定してご迷惑をおかけすることも少なくなると思、います。

理解の輪 拡がる

徹之は、脳の統合機能障害のため、状況を知覚し認知することが苦手で、模倣もしくい子供です。それでも耳より目からの情報は入り易く、それに大人より同年令の子供の方が、少しでも模倣の対象としてはいいですよ。子供の発達から模倣をとり除くと、子供の発達はありえませんが、その模倣も下手で、他の人の言動が目や耳から入りにくい子供ですから、せめて同年令の子供からの刺激は少しでも多く受けさせて、少しでも発達させてやりたいと親として切実に願っております。

どんなに親が頑張っても、どんなリッパな治療者、施設があっても、それは少しは子供の発達を援助することはある、でも、それだけでは社会への自立は不可能で、治療以上に大切なのは、普通の子供達と育つ、育つ生活環境の中であたり前に生きていける力をつけることだと思っております。どうかこのクラスの一員として、共に生きていけるよう心よりお願い申し上げます。

そのように申しました。大勢の方から拍手をいただきました。泣いていられる方も、いや、いや、いや、その場で私はクラス委員を引き受けることに



もなりました。最初は全てのおかあさん方は、ま、と発言された方と同じ疑問をお持ちだ、たかゆれれません、「見なれない変な、た子」と、ま、とどなたの目にも映ったことでした。よう、私は説明できるいい機会を手えてもらったことになりました。

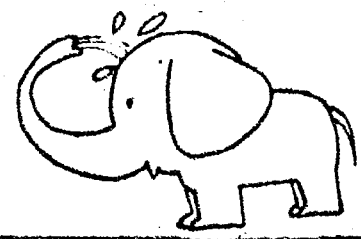
地域の人達とのふれあい

それ以来、徹之の普通学級での生活は、親の方の理解の上に、子供達の豊富な働きかけがあつて、素直らしいものとなりました。私も、とPTA役員を引き受け、おかげで先生方、おかあさん方と親しくなり、私の佐賀での日障害児のための地域活動に多大な協カとご支援をいただきました。

徹之をはじめどの子も、日障害がある故に家庭内や施設に閉じ込められてしまふことなく、少しでも多くの社会経験をつみ、一般社会の人々と正しい理解をしてもらおうと私は願ひ、キャンプ・リクリエーション・夏は水泳教室・冬はアイススケート教室を開催しては、日お互いにかつあおうと努めてきました。福祉関係の方以外に、クラスや町内のおかあさん方、PTAの役員の方々がボランティアになって、毎回協力して下さりました。このように地域の方々が支えて下さると、私達障害児をもつ親にとりまして、子供を地域へと広げる大きな力となりました。

す。子供達も障害児をありのままに見て、ありのままの姿を理解して、本當の思いやりが芽生え、そして自然に手をかしてくれるようになりました。障害児をもつお父さんお母さん地域に生きる巨大切手を実感として受けとめるようになりました。

ひまわりで
学んだことが
エネルギーに



お互いに理解するためには、ふれあうことが必要です。このように考え、佐賀で多くの支障にもめげず実行できたのも、日川崎ひまわり父母の会で五年間学ばせてもらい、なおかつ、ひまわりより感謝いたしております。ひまわりを知らずに、佐賀で徹えを育てていたら、現在の徹えのあすばらしい笑顔はなかったでしょう。

佐賀での五年間、ずっと普通学級で過ごしました。一度もいじめられたことも馬鹿にされたこともなく、むしろひまわりくん徹えさんとは、学校中の人々から愛されてきました。五年の卒業式の時、保護者代表の挨拶を私がおおせつかり、先生方だけだけでなく、全校生徒、ご父兄の方もお礼の言葉を申し上げました。私が障害児の親だからと体が言えて、

皆様の心をうつろい、またと思ひます。

佐賀を去るにあたって、三百名の方から日お別れの言葉を頂いた。また、それを読みますと、徹えは人のお世話になるだけの存在ではなく、むしろ多くの人々の心の中には、多大な影響を与えている価値の大きな人間なのだと思えました。徹えのおかげで、私は、感動と感謝の日々がおくれ、友情厚き友人達に恵まれ、いろいろな社会勉強ができ、とても有意義な人生を歩んでいこうと思ひます。

また川崎で
仲間と共に



あたりまえの人生があたりまえでなく、た時、多くを学び、より大きく成長する。どうしようが、障害児をもつて、その子と共にどう生きていくかは親の考え方ひとつにかかっている。私は徹えの障害に気づいた十年前、ひまわりが、多くを学ばせて下さり、支えてくれました。今春、また古巣に帰ってきて、また仲良くして下さい。

